第57回全国審判講習会報告

新潟県学校高等野球連盟審判部　南支部
両田潤平

第57回全国審判講習会は4月22日・23日阪神甲子園球場において、初夏を思わせる程の天候に恵まれた中、開催されました。子供の頃より憧れのグラウンドに出てスタンドを見渡し改めてこのグラウンドで講習を受けさせて頂く事に感謝し、大きな声を出し「一生懸命走るぞ」と心に決めました。
実技講習会を前に規則委員会、日野委員長より挨拶を頂きました。
日野委員長からは、我々審判員はグラウンドの中の先生（グラウンドティーチャー）である。
審判員は、常に選手の為に「挑戦＝チャレンジ」をし、技術の向上に努力をして欲しいとお言葉を頂きました。
それでは二日間の講習内容を報告させて頂きます。

① ジェスチャーの練習
セーフ･ファールボールのジェスチャーは指をしっかりと閉じ、指先迄気持ちが伝わるよう、しっかりと伸ばす。球審のジェスチャーはオンザラバーで「よし」ゲットセットで「さあこい」と大きな声で発生する練習をしました。「実際は大きな声を出す事はありませんが、心の中でそういう掛け声をして欲しい」と言う事。

② 投球判定の練習
投球判定をする際、ヒールトゥヒールで構えているが、それだと捕手に近すぎている為目安として捕手のベルトにつま先を合わせ、投球判定をするよう練習を行いました。

③ 盗塁の判定練習
２塁の場合は捕手の送球がマウンド付近を通過した時点で「送球が良い所に行く」時には２塁に４歩でセットポジションをとり、プレーを待ち構える。
立ち遅れてしまった場合には、目線をしっかりと止めプレーを待ち構える。
３塁の場合は基本的に、３歩でフェアゾーンに位置しプレーを待ち構える。

④ ランダウンプレイの判定練習
アウト・ノータッグ・ラインアウトのジェスチャーは１回で大きな声で、ジェスチャーをする。
２回３回とジェスチャーを出していると、次のプレーに備えられないと指摘されました。

⑤ 本塁周辺の想定プレー

ファールボールでの捕手の邪魔をしない。

ホームクロスプレーの判定では、センターポジションに位置し送球に応じてプレーを待ち構える。立ち遅れてしまった場合は、センターポジションを動かず、止まってプレーを待ち構える。

アウト・セーフの判定は、大きなジェスチャー・大きな声で１回で行う

⑥ 閑話

元規則委員会副委員長　永野元玄氏より閑話をして頂きました。

松山商対熊本工の奇跡のバックホームのお話や、松井秀喜の 5 打席敬遠のお話など、とても貴重なお話を聞かせて頂きました。

そんな中、永野氏はカウンターの重要性についてお話をされました。

カウンターを操作する時のタイミングは常に一定の場所で行った方が良い。

操作を一定の場所で、行う事によりカウントの間違いは減らせるはずとお話されました。

⑦ 自由時間

宿泊場所は 6 人 1 部屋で泊まりました。そんな中、他県の審判員の方と交流をはかり、審判員として熱い話に花を咲かせ、夜遅くまで色々な事を語り合いました。

二日間とも晴天に恵まれ大変有意義な経験をさせて頂きました。

このような機会を与えてくだいました、新潟県高等学校野球連盟関係者の皆様に感謝とお礼を申し上げ、全国講習会の報告とさせて頂きます。

ありがとう御座いました。